

一〇一三年四月一四日

さへづりや千羽鶴吊る大師堂
花筏破りて鯉のはねにけり
一〇一三年四月一三日

収束に近きコロナ禍花は葉に
看板のひらがな読めて入学す
クロッカス北の大地を割り出づる
雲のごと大邸宅の花水木

なつき
よし子
御仏の御手にとどまる名残花
ぽんこ

一〇一三年四月一二日

甘桺の丘に登れば著莪浄土
野地蔵の首に蓮華の花飾り

もとこ
むべ
澄子

かご盛りの筈並ぶ寺の市
花の雲へと消ゆジェットコースター
高梯子木の天辺へ剪定師

なつき
智恵子
愛実

一〇一三年四月一〇日

一渓の風に山吹揺れどほし
轟りを零す大樹の葉擦れかな

満天
やよい

古墳出て次の古墳へ青き踏む
幼な子の呼気逞しきシャボン玉
グランドゴルフ暫し中断花吹雪
もも色の子豚の鼻へ春の蠅

みきお
みきお
こすもす

一〇一三年四月九日

投票終え帰りの道の花は葉に
吊り橋のへつびり腰に山笑ふ
御仏の御手にとどまる名残花
満天

一坪の庭をはみだし豆の花
蝦夷地発つ翼下の大地春霞
智恵子
澄子

毎日句会みのる選・一〇一三年四月一六日

よう子
むべ
澄子